

泌尿器科後期臨床研修(レジデント)プログラム

1. はじめに

日本泌尿器科学会研修認定施設である日高病院泌尿器科および教育関連施設における計4年間の専門研修により、泌尿器科専門医を取得するためのプログラムです。本プログラムの特徴は、泌尿器科医療の基礎および高度医療を学ぶことにあります。また、患者の満足を第一に考えたチーム医療の実践、泌尿器科専門医として地域の医療機関と連携を持ちながら質の高い医療を提供する方法について学ぶことにあります。

2. プログラム指導者

関原 哲夫 副院長	日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会専門医、日本透析医学会指導医
大竹 伸明 主任医長	日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会認定医、日本透析医学会指導医
増田 広 医 長	日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会認定医

3. 研修方法

- 1) 専門医研修期間においては指導医の監督のもとに教育を受けることを原則とします。指導医を責任者とするチームの一員として、外来診療に従事し、指導医とともに主治医・担当医となって入院患者の診療にあたります。
- 2) 指導医1名につき研修医1名で研修を行います。
- 3) 下記に研修目標、各年次のプログラム概要を示しますが、プログラムの進捗は理解・到達を確認しながら弾力的に行います。
- 4) 泌尿器科全般で有効な研修が経験できるよう、関連施設での研修も取り入れます。
- 5) 専門医研修と並行して、学会発表・論文発表の準備、発表の指導、助言を行います。

4. 到達目標

研修の到達目標は、泌尿器科全般の検査、診断および手術手技の習得です。外来診療については、単独で、治療の必要性・手術適応が的確に判断できることを目標にします。手術に関しては、難易度の低い手術は執刀医として自立し、難易度の高い手術は、指導医のもとで執刀医を務める、または、執刀医の助手が務められることを目標にします。また、学会活動に参加し、積極的に症例報告を行い、専門医取得に必要な研究・論文発表を行うことを目標にします。

5. 研修目標－診療の基礎的事項

- ① 記録の記載
 - 1) 診療記録、手術記録、その他の記録・書類の記載
 - 2) 指示、オーダーの出し方と記載
- ② コミュニケーション・スキル
 - 1) 患者・家族への説明方法、接遇
 - 2) チーム医療の一員としての役割とチーム医療の進め方
- ④ 診療システムの理解
 - 1) 外来診療、入院診療の流れ
 - 2) 手術計画の作成、手術室の管理
- ③ 他医療機関等との関係
 - 1) 救急患者・紹介患者の受け入れ
 - 2) 診療情報の提供

6. 研修目標－検査・診断

- ① 理学的検査
 - 1) 腹部診察、直腸診、陰嚢内容触診
- ② 症候
 - 1) 排尿症状、乏尿・無尿、性功能(勃起・射精)障害
- ③ 尿検査
 - 1) 採尿法、尿沈渣作成法・染色法・観察方法、尿生化学検査
- ④ 血液検査
 - 1) 内分泌検査、腫瘍マーカー
- ⑤ 各種分泌物検査
 - 1) 尿道分泌物検査(染色法)、前立腺分泌液
- ⑥ 精液検査
 - 1) 採取法、検査法
- ⑦ 内視鏡検査
 - 1) 経尿道的操作、軟性・硬性膀胱鏡操作、逆行性腎盂造影、尿管鏡
- ⑧ 画像診断
 - 1) KUB、DIP、逆行性尿道造影、経皮的順行性腎盂造影、逆行性腎盂造影の施行と読影
 - 2) CT・MRI・の画像の読影および各種核医学検査の判定
 - 3) 腹部超音波による腹部臓器、副腎、腎、膀胱、前立腺、陰嚢の観察
 - 4) 経直腸超音波による前立腺の観察
- ⑨ 腎機能検査
 - 1) 各種腎機能検査

⑩ 各種生検

- 1) 超音波ガイド下前立腺生検
- 2) 精巣生検
- 3) 腎生検

⑪ 尿流動体検査

- 1) 尿流量測定、膀胱内圧測定

7. 研修目標－手術

経験すべき手術と件数

- 1) 単独でも執刀医として実施可能にすべき手術:4年間で170 例以上
経皮的腎瘻造設、経皮的腎結石砕石、経尿道的尿管結石砕石、経道的前立腺切除、経尿道的膀胱腫瘍切除、高位精巣摘除、精巣固定、内視尿道切開術、(腎生検、前立腺生検、精巣生検)、前立腺被膜下摘除など
- 2) 指導医の下で執刀医として実施可能にすべき手術:50 例以上
根治的腎摘除、根治的腎尿管摘除、根治的膀胱摘除、回腸導管、根治的前立腺摘除、尿管再建(尿管端々吻合、尿管膀胱新吻合)、女子尿失禁根治手術、など
- 3) 指導医の下で助手を勤められるようになるべき手術:30 例
体腔鏡(副腎、腎、腎尿管)、腎部分切除、後腹膜リンパ節郭清、尿管再建(腸管利用、ポアリ法など)、精管-精管吻合、精管-精巣上体吻合、その症例の少ない手術:、尿瘻閉鎖、全陰茎摘除、陰茎部分切除、鼠径リンパ節郭清、腎移、など

8. 研修目標－学術研究

- 1) 年1回以上の日本泌尿器科学会提供の教育プログラムへの参加
- 2) 年2回以上の泌尿器科関連学会(単位認定学術集会)参加
- 3) 4年間で4回以上の学会発表(日本泌尿器科学会地方会、その他を含む)
- 4) 4年間で4編以上の論文作成(症例報告を含む)

9. 関連施設

- 1) 原町赤十字病院
- 2) 日高リハビリテーション病院
- 3) 白根クリニック

10. 各年次の研修概要

(後期研修4年間:モデルプログラム)

1年目

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修開始、研修宣言											

指導医からの指導、補助を受け、以下の研修を行う。

- <外来> 新患の病歴・所見の聴取が行える。尿路のX線検査、超音波検査、内視鏡検など泌尿器科として必要な検査を行い、検査結果から、診断・治療の必要性・手術適応を判断し患者・家族に説明する。再来患者を担当する。指導医のもとで、ファーストコール、オンコール体制を経験する。
- <病棟> 手術患者の周術期管理、手術患者以外の入院患者管理を行う。カンファレンスで症例報告を行う。
- <手術> 術者として、難易度の低い手術(環状切除術、精巣摘出手術、経尿道的前立腺摘除術等)を部分的に行う、または、完遂する。大手術については助手を務める。
- <研究> 学会等に積極的に参加する。学会発表、論文発表の準備、または実際に発表する。

2年目

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

基本的には1年目と同じ研修内容となるが、より自立して行うことを目指す。

3年目

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

泌尿器科専門医に要求される診療全般について、自立して行える。

- <外来> 幅広い診療技術を習得するとともに新患、再来患者の診療を自立して行う。また、医療機関同士の連携に必要な手順を理解し診療を行う。
- <病棟> 複雑な病態や術後合併症が発症した患者に対しても、適切な治療方針の決定・変更を行う。
- <手術> 難易度の低い手術は術者として自立して完遂する。大手術を術者として経験する。
- <研究> 学会等に積極的に参加する。学会発表、論文発表を行う。

4年目

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受験申請				試験	通知		認定申請		認定診査		

泌尿器科専門医として自立した診療を行う

学会発表に参加する。自施設での診断や治療成績を検討した臨床研究を学会・論文に発表する。